

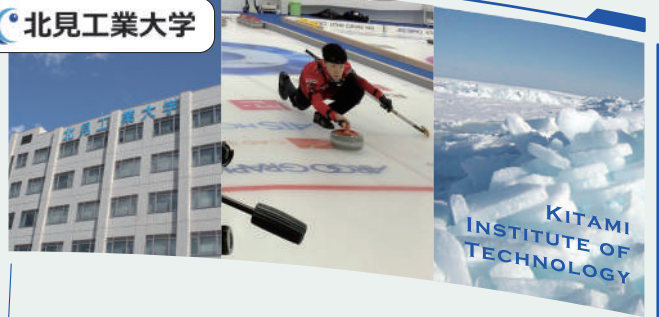
# 北海道国立大学機構 ヒトづくり・モノづくり基金

ご協力のお願い

 小樽商科大学



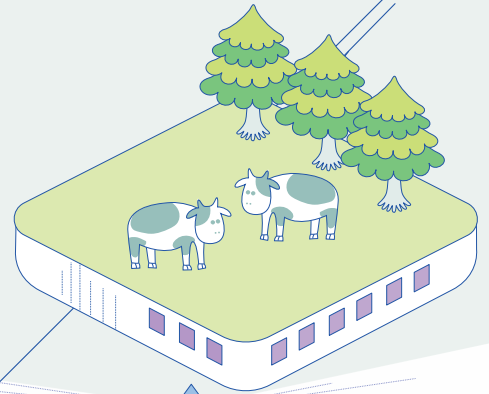
 北見工業大学



OBHIRO  
UNIVERSITY OF  
AGRICULTURE  
AND VETERINARY  
MEDICINE



 帯広畜産大学



# 北海道国立大学機構 「ヒトづくり・モノづくり基金」

2022年4月、小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学が経営統合して国立大学法人北海道国立大学機構が誕生しました。

小樽・後志、帯広・十勝、北見・オホーツクと北海道の広域で、商学、農畜産学、工学分野の特色ある教育研究を展開してきた三国立大学法人の経営統合は全国初の試みです。

北海道国立大学機構は三国立大学の教育研究連携をリードして「実学の知の拠点」を形成し、合わせて産学官金連携によって北海道経済・産業の発展と国際社会の繁栄、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。この目標を達成するためには経営改革と財政基盤の強化が求められます。特に国立大学の財政の柱である運営費交付金が減少し、政府の補助が期間限定の競争的資金へとシフトする状況の下で、持続性があり裁量性の高い教育研究資金を確保するためには自己資金が必要です。そこで、この度、本機構は「ヒトづくりモノづくり基金」を創設致しました。機構の創立理念と活動にご理解を頂ける皆様から頂戴したご寄付を基金化して未来に伝え、基金の運用益によって教育研究活動を強化することが目的です。

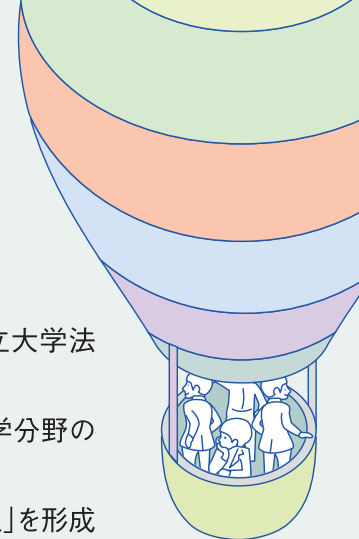
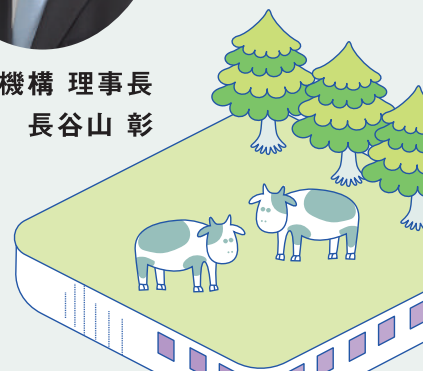
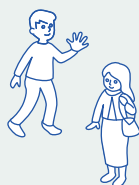
北海道国立大学機構は産学官金連携による教育研究のイノベーション創出をめざして教育イノベーションセンター(ICE)とオープンイノベーションセンター(ACE)の二つの組織を設立しました。ICEでは、社会の変化に柔軟に対応し、各分野でリーダーとして活躍できる人材を育成するために、すべての北海道民に高等教育へのアクセス機会を提供する「ユニバーサル・ユニバーシティ構想」や時間・場所に制約されず自ら学びを設計できる「単位累積型学位取得プログラム」など先端的な教育プログラムの開発に着手しています。ACEでは、「商学」「農畜産学」「工学」の分野融合型研究の推進、基礎・応用研究から社会実装までを一貫した産学官金連携共同研究プロジェクトの開発が進んでいます。ICE、ACEの活動が本格化する中、新たに共同プロジェクトの拡大強化を担い、外部機関との一元的な窓口となる産学官金連携統合情報センターも発足する予定です。

北海道では畜産業が盛んな反面、CO<sub>2</sub>の25倍の温室効果がある家畜由来のメタンガスや飼料栽培による森林伐採が問題になっています。帯広畜産大学は企業と連携してメタンガスを減少させる技術の実用化をめざしています。北見工業大学では寒冷地の防災工学やオホーツク海から新エネルギーを取り出す研究など多様な分野で産学連携を進めています。東北以北で唯一のビジネススクールを運営する小樽商科大学ではグローバルな視野でローカルな課題を解決し北海道の経済・産業の発展に貢献できる経営人材の育成に力を入れています。

18歳人口の減少や産業構造の変化など課題はありますが、北海道は食料自給率約200%で日本一、風力、太陽光など新エネルギーポテンシャル日本一、都道府県魅力度ランキング日本一と豊かな北の大地であり、大学が地域と連携することで輝かしい未来が開けます。産学官金連携で北海道の経済・産業の発展及び持続的な社会の実現を目指す北海道国立大学機構の挑戦は今、始まったばかりです。本機構の活動にご理解とご賛同をいただき、皆様からの多大なご支援を賜りますようお願い申し上げます。



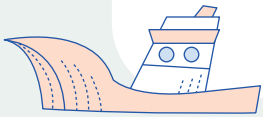
国立大学法人北海道国立大学機構 理事長  
長谷山 彰



## 三大学総括理事(学長)メッセージ



小樽商科大学  
穴沢 眞



小樽商科大学は、1911年の建学以来「広い視野と豊かな教養・倫理観に基づく専門知識を持ち、社会で指導的役割を果たす品格ある人材の育成」を掲げ、「実学・語学・品格」をモットーとした教育により、国内外で活躍する有為な人材を輩出してきました。

近年はグローバル人材の育成に力を入れ、海外留学や地域での課題解決型教育、学内起業を含むビジネス教育など、特色ある教育・研究を推進して参りました。

北海道国立大学機構では、こうした地域に根差した実践的な教育・研究を二大学と協働して発展させ、文理融合の知を備えたイノベーション型の人材育成に取り組んで参ります。これからもご支援のほどよろしくお願いいたします。

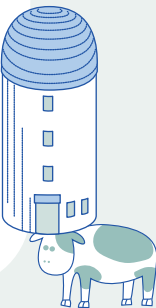


帯広畜産大学  
長澤 秀行

帯広畜産大学は、1941年に設立され、「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝において、生命、食料、環境をテーマに「農学」「畜産科学」「獣医学」に関する教育研究を推進してきました。

現在、「農と食」を取り巻く状況は変化しており、対応可能な人材の育成が求められています。本学は北海道国立大学機構の一員として、AI/IoTスマート農畜産業等の異分野融合の取組を三大学で協力して推進し、北海道経済・産業の発展に貢献するとともに、本学のミッションである「知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、「食を支え、暮らしを守る」人材の育成」を果たすことで、地域及び国際社会に貢献します。

これからもご支援のほどよろしくお願いいたします。

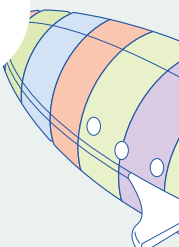


北見工業大学  
鈴木 聡一郎

北見工業大学は、1960年に「工学に関する高度な専門教育を受け、地域産業や日本の科学技術の発展に寄与し得る学力と識見を兼ね備えた技術者を育成すること」を目的として設置されました。

本学は「人を育て、科学技術を広め、地域に輝き、未来を拓く」を理念に掲げ、立地環境を生かした「防災科学研究」を始め、地域及び社会に貢献するため「エネルギー・環境工学」、「冬季スポーツ科学」等、特色ある教育研究を推進して参りました。

北海道国立大学機構の一員として異分野融合の取組を強化し、新産業の創出やDX推進、グリーン社会の実現を目指して、その成果を地域及び社会に還元して参りますので、北海道国立大学機構ならびに三大学を応援いただければ幸いです。





# 多様な人材を育成

# ICE

教育イノベーションセンター

## 人材育成をして地元に着!

三大学の学生が商学・農畜産学・工学を分野横断的に学べる教育プログラムや商農工が連携融合した教育コンテンツの開発に力を入れています。また、人生100年時代を迎え、多様な学修者やそのニーズに対応するため、時間・場所の制約なく学べるリカレント教育の開発に取り組んでいます。

### 科目の相互提供、教養教育科目群の共同運用

提供科目(例)

- 「数理・データサイエンス科目」「文理融合導入科目」
- 「地域理解・課題解決科目」
- 「ベンチャーマインド醸成科目」

### 文理融合の副専攻型プログラム

三大学の科目を複合的に組み合わせた教育プログラムを開発

#### アントプレナシッププログラム

北海道の地域特性を理解し、イノベーションに資する他分野の知識を得ることにより、地域・企業等における革新を実行しうる人材を育成

#### スマート農畜産業プログラム

農学をベースに、情報処理ならびに商学系科目を履修することにより、国際市場への挑戦を見据えた新たな農業システムを考察できる人材を育成

#### スポーツ・健康プログラム

スポーツと健康を、工学・農学・商学の融合的視点から理解し、地域の人々の健康維持・増進はもとより、経営的視点から健康産業にも貢献できる人材を育成



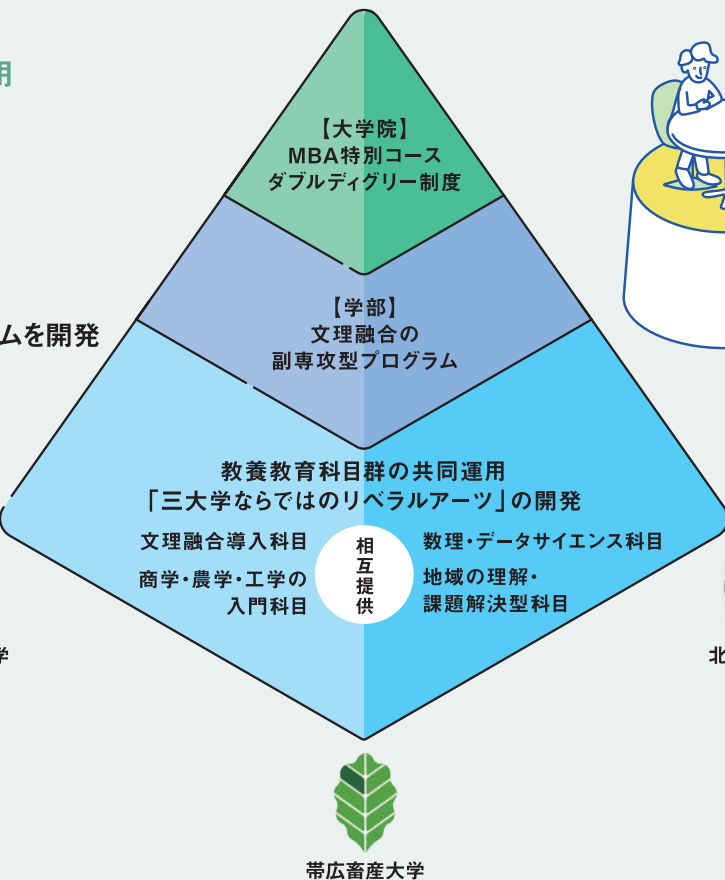
小樽商科大学



北見工業大学



帯広畜産大学



## 学部教育

- 分野を超えた専門知識や幅広い教養の修得を目的とした、数理・データサイエンス、AI、教養教育・リベラルアーツ等の科目の共同運用
- 3大学の専門分野を生かした文理融合の副専攻型プログラムの展開
- 学びの多様性・自主性や教育研究の学際化に対応した単位累積型学位取得プログラム等の新しい共同教育プログラムの開発

農学をベースに、情報処理ならびに商学系科目を履修することにより、国際市場への挑戦を見据えた新たな農業システムを考察できる人材を育成

データ収集・分析・活用



- 生体情報等のデータを活用した、生産性向上、将来予測・設計
- 作業の省力化・自動化、遠隔操作

## 大学院教育

- 農学・工学の修士・博士号とMBA(経営管理修士)のダブルディグリー制度を含む共同教育プログラムの構築
- 将来的な共同大学院への発展を見据えた所属大学の枠を超えて相互に研究指導を受けられる体制の構築
- 学際融合的な研究者育成を目的として、研究機関の優れた環境のもとで研究指導を行うための公的試験研究機関等との連携大学院の開始

- 農畜産・工業接続型MBA特別コースにより、未来の農業を切り拓き、日本の食卓を支えるプロの農業経営者を育成
- 国際的な競争の中で学際的・先端的領域への先導的な対応により、「食」や「農業」を生かした地域課題の解決に資するリーダー人材を輩出



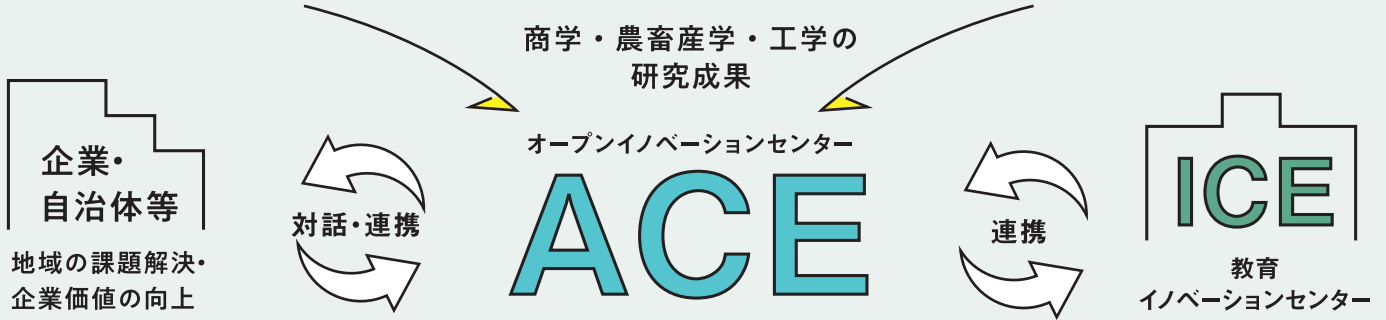
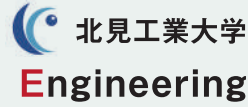
# 未来の北海道を共創

# ACE

オープンイノベーションセンター

## 産学連携を加速し地域産業に貢献!

商学・農畜産学・工学の研究力を融合させ、技術開発、社会実装、ビジネス展開まで、一貫した研究開発プロジェクトを推進することで、北海道の課題を解決し、産業・社会の発展に貢献することをめざします。



推進事例  
産官学金が連携する  
研究プロジェクトの

### AI/IoTスマート農畜産業プロジェクト



自然とテクノロジーが共創する次世代エコシステム  
新一次産業教育研究拠点構想

農畜産業における収穫作業の人手不足に対応する技術開発

### 防災プロジェクト



多分野における地域コミュニティ創出と総合災害対策の形成構想

災害時のリアルタイム調査状況共有システムの開発

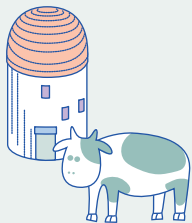
### 観光プロジェクト



道内空港を活用した観光・食品ニュービジネス、地域活性化構想

データ駆動型観光の実現とビジネスモデルの開発

産学官金連携によって北海道経済・産業の発展、持続可能な社会の実現に貢献



農場

## 「食を支え、暮らしを守る」人材の育成

生産 → 加工 → 流通 → 小売

情報工学・機械工学等

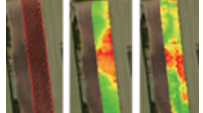
マーケティング、経営等

食卓



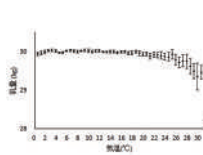
ドローン技術、人工衛星データを利用した土壌特性評価

サンプル箇所 CEC (養分保持力) リン酸含量



作物が持つ収量ポテンシャルの最大化

膨大な育種データ解析による遺伝的優良乳牛等の生産



日本の飼育環境に適した乳牛等の改良

無人ロボットトラクタによる安定連続作業運転の実証



大規模畑作での投下労働力の大幅削減

ロボット車両導入による自給飼料調整、堆肥化ロボット開発



効率的で環境に優しい飼料生産の実現

24時間センサー装着の牛群管理システムによる疾病対策



疾病牛早期発見・対処による農家貢献

牛枝肉の高精度画像解析カメラ開発による新肉質評価法普及



優良牛の選抜・改良・市場競争力向上

# 産学官金連携の新しい形をつくります

## 産学官金連携 統合情報センターの 設立

## 産学官金連携統合情報センター

- ・シーズの営業・広報
- ・プロモーション・マーケティング
- ・3大学の情報集約・流通
- ・ステークホルダーの要望の仕分け・調整
- ・外部資金獲得戦略・知財戦略の企画・立案

ワン  
ストップ  
窓口

産学官金の多様なステークホルダーとの連携を基礎に、外部資金の獲得、ニーズの把握に努め、商学・農畜産学・工学の融合的な研究が創出するシーズとのマッチングにより、北海道の課題解決に貢献する。

- ・要望の伝達
- ・外部資金獲得支援

情報の集約

- ・情報発信
- ・営業・プロモーション
- ・市場調査・御用聞き

- ・各種要望・相談  
(共同研究・人材育成)

## 3大学の産学連携組織

産学連携推進

産業人材育成

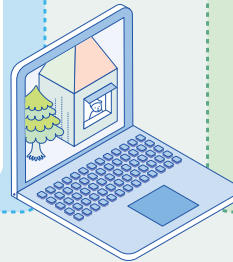
連携融合教育・研究推進機関

### ACE

- 連携融合シーズ生成
- 共同プロジェクト推進
- 知財管理・技術開発
- 社会実装

### ICE

- 文理融合教育
- 地域課題解決型教育
- リカレント・リスキング
- 遠隔教育手法開発



## ステークホルダー

産

民間企業  
経済産業界

学

道内高等教育機関

官

道内自治体  
地方支分部局

金

道内銀行、信金  
政府系金融機関



## 地域連携プラットフォーム

地域連携  
プラットフォームの  
設立

### 北海道国立大学機構

3大学の研究の知見を学部・大学院教育に還元。連携大学院を設置し、学生・研究者間の人材交流を図りながら、最新の研究環境における研究指導を実施。

農業を柱とする  
地場産業の  
成長・発展

### ACE

脱炭素社会の  
実現

観光・  
インバウンドの  
再生

成果・  
知財等を社会実装  
研究費・  
奨学金等

ステーク  
ホルダー

北海道  
道内市町村  
公設研究機関  
民間企業  
金融機関  
アカデミア

全体会議  
参画主体のトップ層等

推進会議  
参画主体のミドル層・キーパーソン等

実行  
部門

実行  
部門

実行  
部門

地域課題の解決の実現

# 北海道国立大学機構 ヒトづくり・モノづくり基金

## 申し込み方法

### 募集要項

#### 募金目的

機構が設置する小樽商科大学、帯広畜産大学及び北見工業大学の商農工の連携融合による教育研究の向上と産学官金連携により生み出されるヒトづくり・モノづくりを通じて北の大地から世界へと続く道を切り拓くことを目的とする。

#### 目標金額

10億円

#### 募金1口の金額

個人：1口 5千円 法人：1口 5万円 ※できましたら、多数口のご協力をお願いいたします。

### 郵便振替

下記の払込取扱票に必要事項を記入のうえ、郵便局・ゆうちょ銀行窓口でお手続きをお願いします。

通信欄の以下の事項につきましては、必ずご記入いただきますようお願い申し上げます。

- 1 本機構との関係について**  
該当項目にチェックしてください。  
卒業（修了）生の方は、卒業大学・卒業年・学科もご記入ください。
- 2 寄附の金額について**  
ご希望の金額をご記入ください。  
（個人一口5千円、法人一口5万円より申し受けます）
- 3 寄附者ご芳名の掲載について**  
ホームページや基金報告書等での掲載について、いずれかにチェックしてください。

※ゆうちょ銀行「払込取扱票」ご使用の際の手数料について

払込取扱票を使用してゆうちょ銀行・郵便局において現金でお振込みいただく場合には、払込人に加算料金110円のご負担がございます。  
なお、ゆうちょ銀行の通帳・キャッシュカードでお支払いの場合には寄附者様のご負担はございません。

## オンライン決済

クレジットカード  
決済



コンビニ  
決済



Pay-easy  
決済



上記3つの方法でご利用いただけます。

北海道国立大学機構WebサイトのQRコードを読み取り、申込手続きをお願いします。

クレジットカード決済では、毎月、もしくは毎年の任意の月にご寄附いただけるよう選択することも可能です。

※決済システムの都合上、本機構への入金はカード決済日の翌月末となり、  
受領証の日付は本機構への入金日となります。  
12月にご寄附頂いた場合、翌年1月分のご寄附として扱われますのでご注意ください。

詳しくは  
こちら



北海道国立大学機構Webサイト <https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/>

## 税法上の優遇措置について

個人からの寄附 **所得控除** 寄附金額 **-2,000円** × 所得に応じた税率 ⇒ **所得税額から控除** されます。

法人等からの寄附 北海道国立大学機構ヒトづくり・モノづくり基金への **寄附額の全額を損金算入** することができます。

お問い合わせ先

北海道国立大学機構 経営企画課  
〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11  
TEL : 0155-65-4334

E-mail:kikaku01@office.nuc-hokkaido.ac.jp  
北海道国立大学機構Webサイト  
<https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/>